

- P1 …… 「神戸ビエンナーレ2011」を支えるボランティア
- P2 …… 口ゴで商店街を盛り上げる！
- P3 …… まちとARTとetc…
- P4 …… 2コマまんがで交流のかけ橋を！
移動困難者への移動支援
子どもたちに笑顔が戻った！
- P5 …… 花とみどりのできること
神戸市社会福祉協議会の取り組み
- P6 …… 新長田から新しいメディアをつくろう
「神戸っ歩」～KOBEMACHINAKA遺産をクイズでめぐる～
- P7 …… 長田区 いろんな催し、開催中
- P8 …… 第1回神戸マラソン開催

市民の皆さんとの取り組みを紹介する

平成23年
10月20日発行
第54号

協働と参画の プラットホーム通信



港で出会う芸術祭「神戸ビエンナーレ2011」を支えるボランティア

「神戸ビエンナーレ2011」は、現代美術をはじめとする、さまざまな分野の芸術に出会うことができる、2年に1度の総合芸術祭です。多様な 世界の人々が「出会い」（2007年）、互いの「わ」（2009年）を育み、そして今回はそれぞれの輝き（魅力）に期待をこめる「きらkira」をテーマとし、神戸ハーバーランド、ポーアイしおさい公園、兵庫県立美術館、そして元町高架下（通称モトコー）などをメイン会場として、10月1日から11月23日までの54日間開催されます。

神戸ハーバーランド会場では、建物内にコンテナ仕様の空間を作り出して、アート作品を展示しています。そのほか、現代陶芸やいけばな、障がい者アート、こども絵画などさまざまな分野の芸術作品を展示しています。また、今回あらたに会場となったポーアイしおさい公園では、「しつらいアート国際展」と「いけばな野外展」を開催しており、神戸の海、港、街なみ、六甲山を舞台に野外作品を展示しています。



しおさい公園での作品製作

また、それぞれの会場では、多くのボランティアスタッフがさまざまなアートに関わり、会場運営のサポートをしています。

（2面へつづく）



ハーバーランド会場



ポーアイしおさい公園

神戸市長のひとこと

—芸術・文化によるまちづくり—



神戸市長 矢田 立 郎

私たちは、阪神・淡路大震災からの復興の過程で、芸術文化の力がいかに暮らしの中で支えになっているかということに改めて気づきました。

この体験を踏まえ、芸術文化の力で未来へ向かっていきいきと進化するまちを目指すため、平成16年に市民の皆様とともに「神戸文化創生都市宣言」を行いました。この宣言の具体化として平成19年から実施しているのが神戸ビエンナーレです。

第3回となる今回の「～港で出会う芸術祭～神戸ビエンナーレ2011」のメイン会場は、神戸ハーバーランド、ポーアイしおさい公園、兵庫県立美術館、そして元町高架下です。アート鑑賞を通じて、神戸のまちが持つ資源・魅力を再認識・再発見いただければ幸いです。どうぞ、10月1日からの54日間、さまざまな魅力がふれる神戸のまちをお楽しみください。

1面より

ボランティアスタッフの皆さんは、作品を誤って壊したりする事がないようお客様を誘導したり、必要に応じて場内を巡視したり、お問い合わせにも対応するなど、さまざまな仕事をこなしています。

準備期間中の9月に入ると、事前説明会に参加したり、展示する作品を作家の方々が制作する手伝いや事務局の補助なども行いました。

ボランティアスタッフは専門家というより、アートに関心のある学生や主婦の方、60歳台の方など幅広い方々が参加しています。

たくさんのボランティアスタッフに支えられている「神戸ビエンナーレ2011」。皆さん是非、会場に足をお運びください。



コンテナへご案内



神戸ARTサポーターズのオ木くみ子さん

「美術館めぐりや音楽が好きで、これまではビエンナーレを見て楽しむ側でした。今回はじめてボランティアとして参加し、一人でも多くの方にビエンナーレのすばらしさを知っていただけるよう案内したいです。」



神戸ARTサポーターズの井上幸夫さん、広大さん親子

「もともと絵が好きで、ボランティアに参加しています。作品を見てコンテナから出てきたお客様に、『よかった』という言葉をいただけるよう一生懸命ご案内しています。」（幸夫さん）

「2007年、2009年に引き続き、親子で参加しています。人と人の輪が広がっていくので、とても楽しいです。大学で芸術を勉強しているので、専門知識を地域につなげていきたいです。」（広大さん）

ロゴで商店街を盛り上げる！ —元町高架通商店街振興組合—

今回の神戸ビエンナーレから、JR元町駅から神戸駅間の元町高架通商店街（通称「モトコー」）が新たにメイン会場に加わりました。幅2mほどの細い通路を挟んで、雑貨、洋服、骨董品、飲食店など多種多様なお店がひしめきあう高架下の商店街です。

その高架下の風情を大切にしつつ、展示スペースとして空き店舗などを活用しているのが「高架下アートプロジェクト」。4月から13組の作家が順次公開制作に入り、神戸ARTサポーターズのみなさんも作品制作の補助をしました。



作品制作のお手伝い



地元学生の協力による壁画の作成

新たに会場に加わったのを受け、地元の商店街振興組合、芸術系NPO、美術館関係者などで構成される「元町高架下（モトコー）にぎわいづくり実行委員会」が発足しました。さらに、商店街では、神戸ビエンナーレを前にモトコーのロゴマークを決めました。一般公募をしたところ市内外から124点の応募があり、店主や買い物客による投票で決定したそうです。ロゴ入りのTシャツを着用してPRするとともに、缶バッジを作り神戸ビエンナーレの期間中に販売、収益を東日本大震災の義捐金に充てる予定です。



ロゴが入ったTシャツ



元町高架通商店街振興組合理事長の岡保雄さん

「神戸ビエンナーレ2011の会場となったこの機会に、みんなで一緒に盛り上げていこうと、ロゴマークを制作しました。124点もの応募があり驚いています。高架下アートプロジェクトをはじめビエンナーレをきっかけにまちの魅力を発信し、モトコーをより活性化したいなと思います。」

まちとARTとetc... -神戸ARTサポーターズ-

神戸に根差したアートを育てたい。2007年に神戸市内で開かれた総合芸術祭「神戸ビエンナーレ」を支えたボランティアスタッフのみなさんが、「神戸ARTサポーターズ(KAS)」を結成し、活動を続けています。

毎月第3水曜日には、市役所1号館1階ロビーにおいて開催されているCity Hall Concertのサポートをしています。会場設営やチラシ配り、司会などを担当したり、東日本大震災の被災地を支援する募金の呼びかけも行っています。

4月には、北野坂で開催されたインフィオラータ2011において、ビエンナーレの花絵を作成し、事前PRをおこないました。

約150人が登録しており、現在開催されているビエンナーレの各会場での案内や作品製作のお手伝いを行うほか、神戸ARTサポーターズの自主企画として、ギャラリーめぐりやギャラリーコンサートなどさまざまなイベントを開催しています。今後、下記のイベントを開催します。フィールドワークは神戸市内のギャラリーや兵庫県立美術館などを巡る予定で、11月23日に開催されるスーパーキッズアンサンブルコンサートは、昨年の秋にも開催し大変好評だったため、今回2回目の開催となったそうです。ぜひご来場ください。



インフィオラータで事前PR



City Hall Concert



昨年秋のコンサート

- ・10月23日(日) ギャラリーコンサート 山崎小夜子さん
場所: ギャラリー301(元町・乙仲通り)
- ・10月28日(金) 加藤義夫さんフィールドワーク「神戸のコンテンポラリー・アートスポット」(市内のギャラリーめぐり)
- ・11月6日(日) 加藤義夫さんフィールドワーク「神戸ビエンナーレ2011関連事業を巡る」(兵庫県立美術館など)
- ・11月23日(水・祝) スーパーキッズアンサンブル コンサート
場所: デュオドーム(JR神戸駅)

いずれもコンサートの入場料は無料ですが、義捐金として募金を募り東日本大震災の被災地に寄付されます。

上記イベントの詳細についてのお問い合わせ

神戸ARTサポーターズ事務局ファミリオ会場 電話: 078-360-8352



神戸ARTサポーターズの村上明子さん

「2009年の前回は見るほうで楽しませていただきました。今回はサポートする側にまわり、ビエンナーレにまた来たいと一人でも多くの方に思っただけのよう、3歳半の息子と一緒にがんばっています。」

神戸ARTサポーターズはメンバーを募集中です!!

*** お問い合わせ・登録先 ***

[神戸ARTサポーターズ事務局]

神戸市市民参画推進局文化交流部 神戸ビエンナーレ事務局内(神戸市役所2号館1階)

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 電話: 078-322-6598 FAX: 078-322-6136

<http://kastop.blog60.fc2.com/> E-mail: supporters@kobe-biennale.jp

2コマまんがで交流のかけ橋を！ -2コマまんが笑顔交流団-

「震災後の子どもたちの心のケアが大切である。」

これは16年前に発生した阪神・淡路大震災で得た教訓です。

「同じ年代の子どもたちがつくった2コマまんがで、少しでも笑ってもらえたら…。」

「そして自分たちもまんがを描くことで楽しい時間を持ってもらえたら…。」

2コマまんが笑顔交流団（以下、交流団）ではそんな想いを胸に5月16日市立明親小学校において5年生の児童約100名と一緒に2コマまんがをつくり、6月14日に「しあわせ運べるように」の歌とともに被災地・陸前高田市立広田小学校へ届けました。

その際、広田小学校からは同校の児童がつくった2コマまんがが交流団を通じて明親小学校に渡されました。2コマまんがをきっかけとした交流が始まっています。



明親小学校で、2コマまんがが作成



▲1コマ目



2コマ目▶

広田小学校に届けられた2コマまんが

移動困難者への移動支援 -兵庫県移送サービスネットワーク-

東日本大震災により多くの方が被災されました。

高齢者らの移送事業者でつくる兵庫県移送サービスネットワークはその中でも、福島第1原発があり支援の手が薄くなっていた福島県で支援活動を行ってきました。公共交通機関を利用することが難しく車を持たない高齢者や障がい者が、避難所や仮設住宅から病院・買い物・官公庁等へ移動することを支援してきました。また、炊き出しや救援物資の提供なども、震災直後から現地の災害ボランティアセンターと協力して行っています。

移動支援活動は、交通の便が不便な所に立地する避難所や仮設住宅に住む高齢者や障がい者の外出を促すことができ、ひいては健康面の支援にもつながっています。

今後は現地ボランティアの方に移送のノウハウを伝え、事業を地域に引き継いでいく予定です。



震災直後は避難所で炊き出しを行いました。



福祉車両での移動風景

子どもたちに笑顔が戻った！ -NPO法人社会還元センターグループわ-

阪神・淡路大震災の震災経験者が多く、人生経験が豊富なシルバー世代の会員で構成されている「NPO法人社会還元センターグループわ」では、東日本大震災直後から「何かをしなければ…」という機運が高まり、7月19日から3日間、宮城県大崎市・登米市で、支援活動を行いました。

登米公民館に避難されている南三陸町の方々に緊急支援物資を直接手渡しした後、2つのグループに分かれて、心の癒し活動として、避難されている親子に「ブンブンごま」「紙とんぼ」「あやとり」などの日本の昔遊びを伝える活動や、田んぼのガレキ撤去作業を行いました。日本の昔遊びでは子どもたちは大はしゃぎ。先が見えない避難所・仮設住宅生活に小さな灯りが見えました。



どこまで飛ぶか、紙とんぼ



田んぼのガレキ撤去を行いました。

花とみどりでできること —兵庫県園芸療法士会—

花やみどりはいつも私たちの近くにあり、こころを和ませてくれます。草花とふれあう活動や植物のある環境は、こころとからだの緊張を和らげ、ストレスを軽減したり、気持ちが通い合う機会を作ります。

兵庫県園芸療法士会では、東日本大震災により被災され、神戸市内及びその周辺に避難されている方々の心と体および暮らしの回復を支援するため、花やみどりを活用した活動を行っています。7月9日（土）神戸市西区のセリオホール、9月10日（土）淡路市野島の兵庫県立淡路景観園芸学校にてイベントを開催しました。

参加されたみなさんは、花を見ることで人と笑顔で顔を合わせ、コミュニケーションをとること、共感しあうことなどの機会が生まれ、癒しの時間を過ごすことができました。

今後も定期的にイベントを行い、植物や人とのふれあいの中でホッとするひと時を過ごしていただくと共に、普段の生活の中でも手軽に行える植物の活用方法を伝えていきます。



7月9日「フレッシュハーブを使って手浴」



9月10日「花やみどりいっぱいの中で癒しの時間を」

神戸市社会福祉協議会の取り組み

神戸市社会福祉協議会では、東日本大震災発生後、被災地救済募金や職員派遣をはじめ、様々な形で支援活動を続けています。

同会で運営している神戸市ファミリー・サポート・センターの市民交流会では、被災地の子どもたちへのプレゼントを募り、会場となったホールには来場者から段ボール4箱分の品物が寄せられました。それらは仙台YMCAの活動を通じ南三陸町の幼稚園へ送り、活用していただけることになりました。

また、コープこうべ、神戸YMCAと協働で宮城県名取市の子どもたちを神戸に招待しました。子どもたちは市内観光や高校野球の観戦、市内中学生との交流を楽しみました。参加した子どもたちの保護者からは「帰ってきてからの子どもの表情はとても明るく、ひとまわり大きくなって、前向きになったように感じます。」との声が寄せられました。

さらに、大学コンソーシアムひょうご神戸と協働で運行した「夏休み学生ボランティアバス」では、約40名の学生が仮設住宅を訪問し、ふれ合い喫茶で憩いのひと時を提供すると同時に、草刈りやこどもの遊び相手になるなど、神戸の若いパワーを届けることができました。

今後も、16年前に震災を経験した神戸市民の方々の熱い気持ちを被災地とつないでいけるよう、様々な支援企画を予定しています。



交流会に寄せられた品物



南京町にて緊張の中での歓迎式典



愛島(めだし)東部仮設住宅にて

新長田から新しいメディアをつくろう —NPO法人DANCE BOX—

2009年4月から神戸・新長田に活動場所を移したNPO法人DANCE BOXがこの度『d.B.freak』を発行しました。d.B.freakは小劇場<ArtTheater dB神戸>で開催するイベントやワークショップなどの情報誌です。A3両面カラーで2ヶ月に1回発行する予定です。第1号は、新舞踊とコンテンポラリーダンスが対比された印象深いものに仕上がっています。

また、DANCE BOXはd.B.freakとはべつに、8月下旬から開催したワークショップ「新長田から新しいメディアをつくろう」をベースにしたフリーペーパーも企画中です。名前は、『長田ルンバ』。2ヶ月に1回、A4の縦半分のサイズで8ページの予定です。アーティストのオンのときとオフのときの出で立ちを写真で比較、遠方からのゲストが宿泊する「寿荘」の出来事、新長田のマップなど、さまざまな企画が進んでいます。第1号は10月。こちら目も目が離せません。



Art Theater dB Kobe



劇場の前にはさまざまなイベントのチラシ



新長田から新しいメディアをつくろうのひとコマ

お問い合わせ

URL : <http://www.db-dancebox.org/>

電話 : 078-646-7044



NPO法人DANCE BOXの横堀ふみさん

「長田ルンバは、過去に発行していたdB通信を大リニューアルし、目線をDANCE BOXから新長田へ広げたいと思います。そして、新長田とダンス、新長田からダンスという切り口から、新たな『新長田』を発見していきたいと思っています。」

「神戸っ歩」～KOBEmachinaka遺産をクイズでめぐる～ —KOBEmachinakaおもてなし倶楽部—

KOBESTは2005年に始まりました。KOBESTとはKOB+ESTの造語で、ESTとは「環境的に持続可能な交通体系 (Environmentally Sustainable Transport)」の略で、温室効果ガスの削減など、交通と環境の問題に対して、長期的な視野で対応する考え方のことです。この取り組みが進む中、KOBEmachinakaおもてなし倶楽部は市民から自発的に生まれた活動で、学識経験者や商業者、コンサルタントなど多様な立場の方が参加しています。

KOBEmachinakaおもてなし倶楽部が、この8月に『第2弾神戸っ歩』を発行しました。神戸っ歩は公共交通機関を利用してまちを歩く人を増やすことを目的としており、観光スポットを紹介するだけでなく、現地に行かなければわからないクイズを盛り込んでいます。また、神戸セレクション倶楽部と協働し、クイズの解答者には景品を贈呈します。そのようにして、観光者が神戸のまちを歩くための動機づけを行っています。



第2弾神戸っ歩

現在、KOBEmachinakaおもてなし倶楽部は「第3弾神戸っ歩」を企画しています。神戸市観光コンベンション推進室とも協働し、情報交換をしながら、来年に予想される「清盛ブーム」にも対応する予定です。



第3弾発行のための打ち合わせ



KOBEmachinakaおもてなし倶楽部の村上恵子さん

「2010年、『まちづくり』と『通販』のコラボレーションで、神戸セレクション倶楽部との国内初の新たな観光客誘致の取り組みが実現。おもてなしの心で、神戸の魅力とKOBEmachinaka遺産を発信します。クイズに答えて神戸のセレクト商品を手に入れたい！」

パートナーシップ活動助成（被災地等を支援する活動）報告会を開催します。

3月11日14時46分東日本大震災が発生し、多くの地域が地震と津波による甚大な被害を受けました。神戸市では震災発生直後より、被災地および神戸市内において阪神・淡路大震災で得た教訓を活かした復旧・復興を支援する取り組みに対して助成を行っています。それらの活動の一部についてはこれまで「協働と参画のプラットフォーム通信」でご紹介させていただいておりますが、約40団体の活動団体参加による活動報告会を下記のとおり開催いたします。一般の方の参加もお待ちしております。

日 時 平成23年10月29日（土）
13：30～16：30（予定）
場 所 神戸市立地域人材支援センター 多目的室
（神戸市長田区二葉町7-1-18）
交通機関 JR・市営地下鉄 西神山手線・海岸線
新長田駅から徒歩約13分
市営地下鉄 海岸線 駒ヶ林駅から徒歩約6分
参加費等 無料。当日現地で受け付けます。



長田区 いろんな催し、開催中。 —神戸市立地域人材支援センター—

神戸市立地域人材支援センター（以下、「センター」といいます。）では、この夏様々なプログラムを企画、実施しました。

まずは、夏休み期間の子どもたちを対象に『夏休みだ！あつまれ！青少年・子ども月間』と題して、「夏休み宿題子ども相談室」や、手作りの便せんや竹細工作りに挑戦する「夏休み体験プログラム」を、大学生ボランティアや地域のNPO法人などの協力のもとに開催、多くの子どもやその家族が参加しました。

また、夏休み最後の日曜日となる8月28日には、地域の高校生を中心とした青少年の自主的運営による音楽・ダンスイベント「ユースサマーフェスティバル」を、ユースステーション長田との共催により開催、多くの来場者でにぎわいました。

秋以降も、10月には神戸市の企画「KOBÉ de 清盛2012」に連携する形で、平清盛関連イベント「清盛ってええ人なん？～1日まるごと清盛デー～」を開催します。清盛をテーマとした講演会からオリジナル紙芝居、平家ゆかりの場所をまち歩き訪問する歴史散策に写真展、平安時代の茶菓子の再現販売まで、盛り沢山のプログラムを用意しています。

また、間もなく開設1周年を迎えるセンターでは、それを記念して11月にはまちの文化祭、12月には大学生の自主企画による「WorldShift KOBÉ」なども開催する予定です。これからもみなさんに楽しんでいただける催しを計画していきますので、是非とも一度センターへお立ち寄りください。

お問い合わせ

地域人材支援センター TEL：078-646-8128 URL：<http://futabasyo.jp/>



ユースサマーフェスティバルの様子



夏休み体験プログラムの様子



神戸市立地域人材支援センター事務局長の向恵子さん
「11月で1周年を迎える当センターは、利用者の方や、毎日清掃等のボランティアをしてくださっている地域の方々に支えられて、素敵な居心地の良い施設になりました。また館内のレトロな様子は多くの方に評判が良いです。ぜひご見学を！」



第1回神戸マラソン開催

— 神戸マラソン実行委員会事務局 —

平成23年11月20日（日）、第1回神戸マラソンを開催します。競技時間は7時間。朝9時に神戸市役所前をスタートして、明石海峡大橋のたもとを折り返し、ポートアイランドの市民広場付近でフィニッシュします。種目はフルマラソンとクォーターマラソン。合計2万人を超えるランナーが神戸の街を駆け抜けます。

このマラソンは、大会テーマを「感謝と友情」としています。これは、阪神・淡路大震災で国内外から受けた多くの支援に対して、復興した神戸の街を感謝の気持ちを込めて見ていただき、そして復興を応援していただいた全国各地から参加するランナーに、兵庫・神戸の魅力を存分に味わい楽しんでいただこうというものです。

沿道での応援はランナーにとって励みになります。沿道での大きな声援をよろしくお願いします。また、このマラソンは、多くのボランティアに支えていただいています。ボランティアは、個人・団体ボランティアを併せて約6千人であり、ランナーの受付、スタート・フィニッシュ地点やコース上での給水や給食、手荷物の預かり・返却、完走メダルの配布、会場案内、沿道整理など、様々な分野において活動していただきます。

このマラソンボランティアの募集は既に終了しており、今後は大会当日までに活動内容ごとの研修を受けていただくことになっています。



2010神戸全日本女子ハーフマラソン大会の写真



コース図

神戸マラソンでは、ランナーだけではなく、ボランティアも主役です。

ボランティアの頑張り、沿道での多くの応援が、大会成功の鍵となります。

ボランティアとして、そして沿道での応援など、様々な形で神戸マラソンに参画していただき、皆さんの力で大会を盛り上げていきましょう！

お問い合わせ

神戸マラソン実行委員会事務局

TEL : 078-325-1430

URL : <http://www.kobe-marathon.net/>

芸術の秋、神戸ピエンナーレ2011の開催にあわせて、各地で行事が開催されています。

今回、多くの方に取材させていただき中で、「人と芸術」、「まちと芸術」、「人と人」をつなげていきたいという想いが伝わってきました。神戸のまちのさまざまな場所では、ピエンナーレをはじめとするさまざまなアートな催しが開催されています。ぜひ、この秋、それらを見に出かけてみませんか。

これからも、市民のみなさんによる協働の取り組みを、たくさん紹介していきたいと思えます。（え）

編集スタッフのつぶやき...

- ・秋の神戸は見どころいっぱい。年間で一番好きな季節です。一句、「芸術を裏で支えるボランティア」(長谷川)
- ・秋到来、各種イベントが目白押しです。裏方で頑張るのボランティアの皆さんの大きさに気づかされました。(横川)
- ・ピエンナーレ、どんな作品に出会えるかわくわくします。(高見)
- ・私事ながら9月に結婚しました。結婚最初の発行です。(小嶋)
- ・食欲の秋。でも芸術鑑賞にも行ってきます。(江坂)
- ・信州の山小屋はもう冬支度。槍の肩から上る朝日は最高でした。(池上)

イラスト担当



高沢康夫